

鳥坂寺跡整備検討委員会 会議録

◆第6回会議（2014年2月13日）

時間…14：00～16：00

場所…歴史資料館 3階研修室

1. 開議

2. 教育長あいさつ

3. 生涯学習部長あいさつ

4. 議事

1) 鳥坂寺跡整備基本計画案（第1次案）の提言

委員長：平成24年度において、当委員会が検討した内容をまとめたものとして、「鳥坂寺跡整備基本計画案（第1次案）」を提言する。

教育長：第1次案としてまとめていただき、大変うれしく思う。

2) 鳥坂寺跡整備基本計画（第2次案）について

（○…委員からの意見・質疑、▲…事務局の回答）

a) 保存管理計画

【事務局から説明】

○表3-3の「地区別現状変更取扱方針と取扱基準（2）」の項目に、「仮設建築物」とあるが、どのようなものを想定しているのか。

▲イベント用のテントなどで、短期間の使用に限られたものである。神社地の年中行事等での使用を想定している。テント以外でも、使用期間、下の遺構に影響を及ぼさないものについては認める。

○一面をゲートボール場などに利用されている史跡公園があり、その脇に設置された道具置き場が、徐々に恒久化、大規模化するケースを見かける。そうならないよう注意してほしい。

▲文化財保護法施行令では、小規模建物で使用期間が3箇月以内となっているので、これを基準とする。

b) 整備計画

【事務局から説明】

- 金堂基壇の礎石についてはどうするのか。
- ▲第1次案で、柱の位置を表示することは決まっているが、実際の石を使うのか、レプリカを置くのかなどの具体的な手法までは決まっていない。
- 山田寺では、実物の礎石を露出展示しているが、亀裂や破損している箇所が見受けられ、やはり長期間の露出展示は難しい。中宮寺の金堂について、整備検討時、調査で見つかっている礎石1個だけを復元展示する案もあったが、一般の見学者に誤解を与えるため、塔跡も含めて、すべての礎石を復元展示することになった。鳥坂寺跡の場合も、基壇の上にどのような建物があって、どこに柱が立っていたのかを表示したほうがよい。ただ、講堂だけ復元して、金堂はやらないとなると、見学者は混乱するのではないか。
- 金堂の礎石位置について、復元可能ならば、見てわかるようにする必要がある。どこまで調査でわかって、どこから復元なのかは、ガイダンス施設で説明すべき。ガイダンス施設の、規模などはどのようなものを考えているのか。
- ▲現段階では、パネルなどで解説することを考えているが、二次整備、三次整備と段階を重ねて、内容を充実させていくこともできる。図面上では、解説広場となっているが、規模的には小さなものである。
- 線路で分断されているため、全体の様子や地形の把握がしにくい。復元模型は必要である。
- 前回の委員会の中で指摘があったが、周辺の古代道路の具体的な様子はわかっていない。古代道路の想定地が調査できればよいが、周辺道路についての研究成果も解説に入れるべき。
- 鳥坂寺跡の特色を出すという意味でも、礎石は、似た材質・石材などを使って復元したほうがよい。講堂跡の須弥壇も貴重なものなので、同様の手法で復元をすべき。
- 金堂北階段の傾斜は、かなり急なものようだが、そのまま復元したのを使って基壇上に登るとなると、安全面で問題がある。
- 金堂北階段は急なため、別の登り口として、スロープ等が必要だろう。だが、金堂跡西側には線路があり崖となっているため、基壇上に登らず、基壇周囲から見てもらうよう配慮したほうがよいのではないか。講堂跡は線路からも遠く、問題はないだろう。
- この委員会以前に設置されていた、鳥坂寺跡保存活用基本構想等策定委員会では、なんとか線路を覆って、塔跡と一体化を図って欲しいという意見があった。

- ▲予算や、近鉄との問題もあるが、単純に覆うとなると、その構造物が、金堂跡より高くなり、景観を大きく損なう可能性もでてくる。
- 高井田第2号公園部分だけ先行して、整備に着手することは可能か。
- ▲部分的な着手は可能かもしれないが、やはり予算面の問題が大きく、国に対しても全体的な整備計画や年次計画の見通しを立ててからでない要望しにくい。
- 復元整備した場合、金堂・講堂跡の近くに調査時の様子が見えるよう全景写真を表示しておけばわかりやすい。
- 回廊跡の北東隅について、部分的に復元する案を現時点では考えているが、回廊は、こういうものだと誤解されてしまう可能性がある。回廊跡はすべての礎石を並べるのかも問題である。食堂・僧房跡は掘立柱建物なので、建物の基壇の有無は不明だが、想定される雨落を基準とした範囲に土を盛り、柱位置をカラー舗装や植栽などで明示する方法が考えられる。
- 平城宮の柱は植栽で復元されているが、メンテナンスについてはどうか。
- 柘植の木が使われているが、かなりこまめな手入れが必要である。

3) 整備検討期間中における史跡鳥坂寺跡の普及・活用について

(○…委員からの意見・質疑、▲…事務局の回答)

【事務局から説明】

- 今後の整備スケジュールについて、整理して欲しい。
- ▲2～3年後に整備着手という流れになる可能性がある。着手までの間、鳥坂寺跡の普及・活用を図りたい。
- 塔跡のある天湯川田神社の祭りはいつ頃行われているのか。
- ▲このあたりの神社は、夏祭りで7月頃に行っている。露店などはない。
- 花火大会についてはどうか。
- ▲去年の9月、8年ぶりに大和川の河川敷で開催した。
- 比較的、鳥坂寺跡に近いので、お金はかかるかもしれないが、神社の境内で光のイリュージョンなどのイベントを行ってはどうか。また、サンヒル柏原を利用できないか。
- ▲現在、サンヒル柏原のロビーには、市民歴史クラブが製作した実物大の鷗尾が展示されているので、利用は比較的容易である。
- 整備の基本計画案は公表する予定はあるのか。
- ▲概略はホームページに公開する予定で、基本構想については既に公開している。
- 市内のイベントや施設などを利用して、年に1回程度は鳥坂寺跡のアピールを行っていくという方向で考えてもらいたい。
- ▲一案として、サンヒル柏原を会場に講演会を開催し、鷗尾の模型や鳥坂寺の模

型を見てもらうといったことが考えられる。さらに夜には、塔跡が照明などで復元されるなども面白い。さまざまな面から検討していきたい。

5. その他

事務局：平成 25 年度で、委員の任期である 2 年を迎えるが、平成 26・27 年度についても、現在の委員のみなさまにお願いしたい。また、年に 3・4 回を目処に当委員会を行ってきたが、今後も状況を鑑み臨機応変に開催する。

6. 閉議